

## 方法書の植生調査地点の選定理由

方法書p. 205の植物の調査手法の本文に、植生調査地点の選定理由を追記しました。

### 3.9 植 物

#### (1) 調査の手法

植物に係る環境要因の区分と環境要素、並びに調査項目との関係は、表3.3.9-1に示すとおりである。

表3.3.9-1 影響要因の区分と環境要素の区分、並びに調査項目との関係（植物）

影響要因の区分		環境要素の区分	調査項目
工事による影響	土地造成(切土・盛土)	植物 ・植物相 ・植生 ・土壌 ・注目すべき個体、 集団、種及び群落 ・保全機能等	植物相、植生、土 壌、注目すべき個 体、集団、種及び 群落、保全機能等
	樹木の伐採		
	掘削		
存在・供用による影響	地形改変		
	樹木伐採後の状態		
	工作物の存在		
	緑化		

植物に係る現地調査内容は、表3.3.9-2に示すとおりである。

調査地域・地点は、図3.3.9-1及び図3.3.9-2に示すとおりである。事業の実施により植物に影響を及ぼすと予想される地域とし、計画地から200m程度の範囲を基本とする。また、植生調査の調査地点の選定理由は、表3.3.9-3に示すとおりである。

表3.3.9-2 現地調査内容（植物）

環境要素	調査項目	調査方法	調査頻度・時期等
植物 ・植物相 ・植生 ・土壌 ・注目すべき個体、 集団、種及び群落 ・保全機能等	植物相	調査範囲を踏査し、目視により種子植物及びシダ植物を基本とした出現種(外来植物を含む)を記録する方法 (現地での同定が困難なものは、個体数に留意しながら標本を採取し同定する)	4季各1回 (春季、初夏、 夏季、秋季)
	植生	植物社会学的手法、群落組成表・現存植生図の作成による方法	3季各1回 (春季、夏季、 秋季)
	土壌	植物調査に基づき、分類、構造及び土壌生産力等を推定し、現地調査により確認する方法	1季1回 (夏季～秋季)
	注目すべき個体、 集団、種及び 群落	注目すべき個体、集団(地上約130cmで幹周300cm以上の大径木を含む)、種及び群落が確認された場合に、生育地の日照条件、土壌条件、水分条件、斜面方位、周辺植生等を確認する方法 (湿性環境に依存する種が確認された場合は、生育条件の確認する)	4季各1回 (春季、初夏、 夏季、秋季)
	保全機能 等	既存文献等を参考に、地形・地質、水象、植物、動物、生態系、触れ合い活動の場等の調査に基づき、植生の有する保全機能等を推測する方法	1回

表3.3.9-3 植生に係る現地調査地点の選定理由

調査項目	選定理由
植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地踏査で確認された植物群落を網羅的に把握できるように、群落調査地点を設定する。</li> <li>・地点選定にあたっては、環境の違いが把握できるように留意する。</li> </ul>